



幼稚園教職課程学生のメディア活用指導力とその育成

1 はじめに ～教育の情報化と児童の教育～

急速な情報化社会の進展は論を俟たないが、この社会

の情報化を子どもの教育を取りまく環境と関連してとらえるとき、情報環境整備ならびにその積極的な活用のことを「教育の情報化」と称している。学校教育における情報化への対応・教育の情報化の推進や加速化については、実に1980年代（臨時教育審議会第二次答申（1986）等）からその意義や必要性が謳われている。そして小中高校の学習指導においては、各校種の「学習指導要領」による周知やさざまな先導的な取り組み、検証的な評

1 人間学部児童教育学科准教授

2 社会学部社会情報学科教授

価（文部科学省2015）などの形でいろいろな実践の積み重ねが進んでいる。

ところで、平成29年3月告示の幼稚園教育要領（文部科学省2017）には、いわゆる「コアカリキュラム」の概念の導入に併せて、第1章総則に新たに、第2『幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』』という項目が設けられた。この『(5) 社会生活との関わり』のなかで、『(筆者補足：幼児が) 幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる』との記載がなされた。これは、幼い児童の情報活用という視座を明文化したといえる。さらに同章第4『指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価』の3『指導計画の作成上の留意事項』において、『幼児の体験との関連を考慮する』ことを指摘しつつも、初めて『視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する』と、ICT活用・メディア活用に言及する記載がなされた。このように、もちろんその様態は小学校以降の学習指導と大きく異なるとはいえ、幼稚園教育においても、教育の情報化に向けた取り組みが求められているといえよう。

筆者は、小中高校教員向けに開発された『ICT活用指導力チェックリスト』（文部科学省2007）を翻案した幼稚園版のチェックリストを試作して、幼稚園教職課程学生の到達度の現状を明らかにする試行（藤谷2017）にも取り組んでいる。本稿では、筆者2人が平成16（2004）年度から担当している本学子ども学科幼稚園教諭教職科目「教育の方法と技術」で実施してきた指導が、特に幼稚園教諭教職課程学生のメディア活用指導力に関してどのような役割を果たしているかを検討する手がかりを得るために、まず科目の取り組みについて概括し、続いて学生の「教育の情報化」「メディアを活用した指導」の関心や理解の現況について、学生の自己評価を交えながら検証を試みたい。

ところで「教育の情報化」とは、情報化に対応した教育環境をつくるということである。情報化社会を見据え、それに対し、(A) 対応した学習内容を取り入れること、(B) 学習形態や環境を改善すること、の2点

を主なねらいとしている。前者が「情報教育」、後者が「ICT（情報通信技術）の活用」「校務の情報化」の合わせて3つの側面に整理されている。

「情報教育」とは、子どもたちの情報活用能力を育成することを目的とした内容の学習活動のことである。「ICTの活用」とは、ICTを効果的に活用することで子どもたちの興味関心が高まる授業をつくり、学びの目標を達成することを目的とした取り組みのことである。「校務の情報化」とは、教職員がICTを活用して情報を共有することで、よりきめ細かな指導を行うことを目的とした取り組みのことである（奈良教育大学2015, p.22）。



（引用：奈良教育大学2015, p.22）

図1 教育の情報化

2 科目「教育の方法と技術」について

子ども学科幼稚園教諭教職科目「教育の方法と技術」は、教育職員免許法施行規則第六条別表の示す教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、含めることが必要な事項「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に該当する科目である。シラバスによると、同科目は「〈1〉教育技術・教育方法について考えるための基礎」、「〈2〉映像表現技術の活用」「〈3〉まとめ」からなる計9回の講義（担当：藤谷）と、「〈4〉コンピュータと学習支援」の計6回の演習（担当：藤谷・田中）からなる。

このうち、学生のメディア活用指導力の育成に関しては、講義「第6回 テレビと学校放送」「第7回 い

ろんな視聴覚機器を活用してみよう」「第8回 デジタル教材の素材を集めよう」と、コンピュータを用いた演習「第10～11回 コンピュータを活用した文書作成(1) 資料の収集とプリント(お便り)の作成」「第12～13回 コンピュータを活用した文書作成(2) 配布プリント(行事案内)の作成」「第14～15回 コンピュータを活用した情報管理 ネットを活用した調査の実施とデータベース活用」を通じて、総合的に取り扱っている。なお、本稿はメディア活用に特に注目しているのだが、講義ではその他に、学習に関する諸理論とその歴史の変遷、指導と評価ならびにそのための記録のあり方、小学校以降における学習指導の考え方などを取り上げている。

以下、講義内容の例を示す。たとえば、NHK学校放送は幼稚園・保育園向け番組が多数制作・放送されているが、例年、学生はどのような番組があるかを知らなかったり、過去に視聴経験のある番組が実は幼稚園・保育園向け学校放送番組であることを知らなかったりする。そこで講義では、これまで社会の要請もあってこれら番組が開発・編成されてきたことに触れつつ、代表的な番組を選んで講義中に視聴した上で、他科目等でも学んだであろう歴史上の幼児教育研究者・実践家(デューイ、モンテッソーリ等)の主張と対比して、番組にはどのような意義があるかを考えるかを検討させる取り組みを行った。また、NHK放送文化研究所が行っている幼稚園教諭・保育者を対象としたメディア利用とメディアへの意識の調査結果やその他の先行研究などを示して、教諭・保育者をとりまくメディア環境がテレビ中心から携帯できる情報端末などへと急速に展開していること、特に若手の教諭・保育者にそれら情報端末の活用への関心が高まりつつあることなどを紹介した。特に携帯できる情報端末(タブレット端末など)に関しては、端末用のソフトウェアにどのようなものがあるかを知るために、ソフトウェアの動作する様子を演示しているのを見ることが、保育での利用動向について先行研究報告を知ることを通じ、事例に基づき学んでいった。さらには、幼児の長時間のテレビ視聴の弊害に関する医学的指摘についても概説した。

演習(写真1)では、「履修学生のパソコン操作技能

の向上」「関心のある学修上の話題や興味ある研究課題の探究」の二つの方向性を見据えて、実際の場面を想定した情報機器活用の実習を行ってきている。たとえば「コンピュータを活用した情報管理」と題する演習では、Webサイトを用いたアンケート調査の作成・回答収集・集計の技法を扱う。まず履修学生各自に、仲間の学生に尋ねてみたい関心を持っていることがらを考えさせて調査計画を作らせる。その上で、放送大学が開設し、教育利用目的であれば学生・教員がWebサイト上の調査を実施できるという情報システムREAS(放送大学online)を用いてアンケート調査Webページを作成して、回答を収集する。その集計結果とそこからの考察をアンケート調査報告書として作成して提出させるという課題内容である。Web上で構築されたデータベースを活用することになる本授業を通じて、ふだん履修学生が日常的に用いているWebサイトが自在にデータを活用できるようにデザインされていることについても学ぶ。



写真1 パソコン教室での演習授業の光景

また、「園だより」「会計報告」「子どもの発表会プログラム冊子」「児童が書き込んで使えるプリント」など具体的な場面を想定させて、文書作成などにおいて知っておきたい応用的なワープロ・表計算等ソフトウェアの操作技能を習熟させることもめざしている。そのために、文書作成課題を設定して取り組ませてきた。課題遂行のために行う作業のいくつかは履修学生の基礎教育科目「情報活用演習」の内容に含まれるものもある。が、履修学生によると、よい復習の機会になっているとのこ

とであった。

本科目では以上のような講義・演習を行ってきたのだが、もちろん、本科目以外の子ども学科専門教育科目でも、このようなデジタル機器の活用などを取り入れた授業は行われているとみられる。そのことは、反復的に技能を習得することを通じて履修学生の技能・知識の定着へとつながると筆者は考えている。

3 履修学生のICT活用に関する意識

2017年度子ども学科「教育の方法と技術」履修者（履修者数124人）を対象にして、最終回の授業時に『講義とパソコン演習を受けて、あなたなりにどういうことを【特に学べた】と考えますか。』という質問を行い、履修者の自己評価を自由に記載してもらい調査を行った。ここで、その結果から履修者のメディア活用に関する意識に絞り、学生のようにについて検討する。

自由記述の記載内容は、テキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアKH Coder ver.2.00f（樋口online）を用いて品詞分解して得られた出現語情報と文章中一文一文での出現語共起情報をもとに、複数の回答者が言及していた代表的な記述内容を抽出した。以下、その内容を紹介してゆく。

なお本調査の実施にあたっては、履修者の自由意志による参加を担保するために、

- 氏名を用いないことを説明し、氏名の情報を得ない
- 回答用Webサイトのアドレスを知らせ、参加してもよいと考えた学生にだけ回答してもらう
- 氏名は対応づかないので各自が回答したか否かは履修学生各自の成績とはまったく関係がないことを説明する

の倫理的配慮を行った。回答数は92名（履修者数の74%）、記述があった回答数は88名（同71%）であった。

- (1) 文書作成演習は「将来役に立つ」という意識の強さ
筆者の想像以上に、パソコン演習、特に文書作成の演習について多くの学生が言及していた。そのな

かで特に目立ったのが「将来役に立つ」という意識の強さである。文書作成技能はたしかに業務で発揮しなくてはならないが、事務的作業としての位置づけが強い技能である。また、基礎教育科目「情報活用演習」でも一定程度の技能の習熟を図っているはずである。それでもこのような意識が強く示されたということは、「学習課題を実際の場面に結びつけたものにしてほしい」という履修学生の思いや希望の表れであることがうかがわれる。

- (2) 「楽しかった」「実態分かった」がメディア活用意義の涵養に繋がらず

テレビ番組をはじめとしたメディアに対して学生が持つ意識は、講義・演習を経ても、授業中に視聴した番組が楽しかった・実態分かったといった記述に留まり、これらメディアを教育実践において活用するという意識にはつながっていなかった。活用場面を想起することを促そうと、番組の視聴と、活用場面を想定した説明を組み合わせるなどの工夫をしたが、保育の場面にあまり結びついていないようであった。近年の直接体験重視の傾向のもとであっても、たとえば社会的スキルの涵養を直接体験に依るのではなく、題材によってはテレビ番組が利用できる場面がある。このような焦点化を図った内容も取り入れたい。

また、他の科目に学術的な質の高さを感じ、知識面で内容に不満を示す回答がみられた。これは、本科目の展開における今後の課題である。

- (3) 児童のICTの活用への言及はなし

本科目では、児童のデジタル機器や情報端末の活用事例、知育を謳った情報端末向けソフトウェアが登場してきていること等の解説を行ったが、児童がICTを活用した教育について言及した記述はまったく見られなかった。

4 おわりに ～教育の情報化と履修学生意識の対比～

「教育の情報化」の観点に基づいて、本学子ども学科

教職課程科目「教育の方法と技術」の授業内容を概括したのち、履修者のメディア活用に関する意識に絞り、科目授業終了時の履修学生を対象とした調査の結果について述べた。

(2017年11月30日確認)

履修学生にとって、パソコンや情報メディアは文書作成技能など事務的作業に資するものであると捉えられていて、これは筆者の想定以上の根強さであった。たとえば前述の「校務の情報化」は、職場内でのデータの電子化による情報共有やWebサイトを用いた情報発信・地域連携なども含まれる概念なので、履修学生はかなり狭義にパソコンや情報メディアの役割を捉えているようにみられる。社会の情報化をふまえるとき、子どもたちが情報や情報手段を適切に活用できる能力を身につけることが求められている(奈良教育大学2015)。教育活動を通じて、情報メディアの活用もまじえつつ、『情報を役立てながら活動するようになる』(幼稚園教育要領(文部科学省2017)) ことへと繋がるよう、科目の展開のなかで適切な配慮を行うことが必要なのだろう。

参考文献

- 奈良教育大学次世代教員養成センター (2015). 教員養成・研修テキスト(情報教育)—ICT活用指導力UPのためのハンドブック—, 2015年3月, https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=367 (2017年11月30日確認)
- 樋口耕一 (online). KH Coder, <http://khc.sourceforge.net/> (2017年11月30日確認)
- 藤谷哲 (2017). 幼稚園教職課程学生のICT活用指導力に関する調査, 日本学校教育学会第32回研究大会論文集, pp.68-69, 2017年8月.
- 放送大学ICT活用・遠隔教育センター (online). REAS, <http://reas.code.ouj.ac.jp/> (2017年11月30日確認)
- 文部科学省 (2007). 教員のICT活用指導力の基準(チェックリスト), http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1296901.htm (2017年7月8日確認)
- 文部科学省 (2015). ICTを活用した教育の推進に資する実証事業報告書, 文部科学省委託事業報告書, http://jouhouka.mext.go.jp/school/ict_substantiation/pdf/wg1houkoku.pdf (2017年11月30日確認)
- 文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領, フレーベル館, http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_3_2.pdf